

2016年6月4日（土） - 6月19日（日）銀座 ポーラ ミュージアム アネックスにて

つきどうき ぎよくせんだう

**鋳起銅器 玉川堂 200周年記念企画 東京初の展覧会**  
**「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」**



Copyright(c) : 2016 JTQ Inc./Photo : KOZO TAKAYAMA

新潟県燕三条にて鋳起銅器（つきどうき）の技を継承する玉川堂（ぎよくせんだう）は、創業200周年を記念した展覧会、「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」を2016年6月4日（土）から6月19日（日）まで、ポーラ ミュージアム アネックスにて開催しています。展覧会では、1816年創業時から2016年最新作に至る玉川堂の代表作20余点を一堂に展示し、その空間構成をスペースコンポーザーの谷川じゅんじ（JTQ Inc. CEO）が手がけています。

職人が朝から夕方まで金鋳で銅を打ち生み出される玉川堂の銅器は、人よりも長い命があり、時を重ねることでより美しさを増します。銅器をお客さまの手に渡すことで、そこから100年、200年の日々の中に生まれる時間をお渡ししています。今回の展覧会を通し、鋳音響く銅の器の生命力を感じていただき、200年後の輝く姿を思い描いていただければ幸いです。

>>玉川堂200年展 ～ 打つ。時を打つ。特別記念映像：<https://vimeo.com/166002004>

>>会期中にはギャラリートークなど様々な関連イベントを予定しています。3P目をご参照ください。

#### 展覧会概要

展覧会名：玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。

会期：2016年6月4日（土）から6月19日（日）[16日間] ※会期中無休

開館時間：11:00 - 20:00（入場は19:30まで） 入場料：無料

会場：ポーラ ミュージアム アネックス 〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階 <http://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

アクセス：東京メトロ 銀座一丁目駅 7番出口すぐ / 東京メトロ 銀座駅 A9番出口から徒歩6分 / JR 有楽町駅 京橋口から徒歩5分

会場構成：谷川じゅんじ/JTQ 映像：丸野優/GLMV グラフィック：石橋剛 写真：筒井義昭

プレスに関するお問合せ先 : HOW INC. MAIL : [info@how-pr.co.jp](mailto:info@how-pr.co.jp) TEL : 03-5414-6405 FAX : 03-5414-6406

展覧会に関する読者お問合せ先 : ポーラ ミュージアム アネックス TEL : 03-5777-8600（ハローダイヤル）

玉川堂に関する読者お問合せ先 : 玉川堂 TEL : 0256-62-2015 <http://www.gyokusendo.com>

## 「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」 フィロソフィー

打つ。時を打つ。

私たちの工場では、  
職人が朝から夕方まで金槌で銅を打っています。

私たちが生み出している銅器には、  
人よりも長い命があります。  
それが銅を扱うことの大きな特徴です。  
工場での工程の終わりは完成ではなく、  
銅器はまだ赤ちゃんのようなものです。  
お客さまと出会ってから、命が育ち始めます。  
色合いが深まり、艶が増してゆく。  
銅器は時とともに成長する生きた器です。

私たちはいま、銅を打つことで、  
100年、200年先の時を打っているとも言えます。

私たちの茶器や酒器には、  
少しゆっくりした時間が似合います。  
湯を沸かす。茶葉が開くのを待つ。  
お茶を飲む。酒を酌み交わす。  
季節を感じる。季節を食す。家族や友人と語り合う。  
私たちは湯沸や急須やぐい呑をお客さまに渡すことで、  
そこから100年、200年の日々の中に  
生まれる時間をお渡ししています。  
お客さまの毎日に、  
そんな時間のもたらすさやかな平穏があること、  
そしてそれが私たちの銅器と共に、  
お客さまの子孫に受け継がれてゆくことを思い浮かべます。  
その文化と感性がある限り、  
私たちの銅器も生き続けることができます。

玉川堂の本質とは不連続の連続です。  
この200年の間に様々な困難があったように、  
これからも予期せぬことが訪れるでしょう。  
逆境において知恵を絞り、  
革新を恐れなかった先祖に励まされながら、  
私たちは弥彦山の麓、  
信濃川の流れる燕三条で銅と向き合い続けます。

「命」という字は「人」が「一」枚の板を  
「叩く」という形をしています。  
このことに気づいたとき、  
私たちの日々の営みが  
ほんとうに私たちの命そのものなのだと、改めて感じました。

今日も私たちの工場には鎚音が響いています。



Copyright(c) : 2016 JTO Inc./Photo : KOZO TAKAYAMA



**展示作品より、谷川じゅんじ こだわりの逸品**

花瓶 花鳥金銀象嵌一对

玉川堂3代目覚平/明治20年代



時は明治維新。武士の世に終わりを告げた日本は新しい時代を迎えました。廃藩置県により失職した鋳職人の才能を認め3代目当主が生み出した作品がこの対花瓶です。当時の最高峰の職人＝武士の刀装具匠の技術は従来にない革新的なプロダクト開発に成功したのです。当時3代目当主覚平は若干30歳。これをもって万国博覧会に乗り込み多くの作品を選ばせました。100年前の若者が海外の頂点を目指し挑む心持ちに、今の時代を生きるデザイナーやアーティストが重なります。己の技術や表現に日本ならではの匠や技を盛り込み、海外コンペティションやアワードに挑むその姿と、いかなる差があるのでしょうか。匠を和え進化させる。まさに和の精神ここに極まれり。今も昔も情熱をもったものづくりに差なんかない。その発見が本当にうれしく魂に響いた作品です。

**新作 木目金（もくめがね） 鋳起和器「MOON（ムーン）」**

Photo : Yoshiaki Tsutui



Copyright(c) : 2016 JTQ Inc./Photo : KOZO TAKAYAMA

**木目金：**江戸時代から伝わる日本独自の特殊な金属技法で、色の異なる金属板を幾重にも重ね合わせ、その表面を削ることで美しい木目の模様を作り、時間をかけて打ち延ばす、熟練の職人のみが製作できる技法です。

**MOON：**デザインは、谷川じゅんじ/JTQ が手がけました。

夜空に浮かぶ月の満ち欠けは、太古の昔より世界各国の人々の想像をかき立て、多くの物語を紡いできました。その月をモチーフとし、200年の長きにわたって玉川堂が培ってきた鋳起銅器の技術と、新潟・燕三条が誇る鋳物の伝統を融合し生まれました。実用性とクラフツマンシップの粋を高次元で実現し、あるときは花器として、またあるときはシャンパンクーラーやインテリアオブジェとしても活用できる工藝のモダンアートピース。“鋳起の匠”と“鋳物の匠”が力を合わせ——そして時に技を競い——「鋳起和器」というまったく新しい世界観を創りあげました。

**「玉川堂 200年展 ～ 打つ。時を打つ。」 関連イベント**

- 会期中毎日 製作実演。無形文化財指定の鋳起銅器の技術をご覧頂けます。  
限定商品販売 特別限定商品の急須、茶筒、酒器、図録『鋳起銅器』などを販売致します。
- 6月11日（土） JTQ 谷川じゅんじ × 玉川堂 七代目 玉川基行 / ギャラリートーク（14:00～）  
6月12日（日） 堀口珈琲 鋳起銅器のコーヒーポットを使ったドリップ / コーヒーの試飲（13:00～18:00）  
6月18日（土） 小皿製作体験（13:00～、15:00～）各回6名様、体験料金1500円 / 作品解説（14:00～）  
6月19日（日） 静岡カネジュウ農園 茶師によるおいしいお茶のいれ方 / お茶の試飲（13:00～18:00）

## 玉川堂について

世界有数の金属加工産地、燕。そのルーツは、江戸時代初期、和釘づくりが始まったことに端を発します。江戸時代後期、仙台の渡り職人が燕に鋳起銅器の製法を伝え、1816年（文化13年）、玉川堂の祖、玉川覚兵衛によって受け継がれました。近郊の弥彦山から素材となる優良な銅が産出されていたため、燕では銅器製造が発展しました。日常銅器（鍋、釜、葉罐やかん）の製造から、次第に工芸品の要素を加え、1873年（明治6年）、日本が初めて参加した万国博覧会、ウィーン万国博覧会に出品し、戦前までに約30回、内外博覧会に出品受賞しました。1894年（明治27年）には明治天皇御大婚25周年奉祝に一輪花瓶を献上したことをきっかけに、皇室の御慶事には玉川堂製品の献上が習わしとなりました。



左より： フィラデルフィア万国博覧会 最高賞受賞 賞状、初代玉川覚兵衛作 『鏝葉罐つばやかん』（江戸時代後期）  
三代玉川覚平作 『飾香炉金象嵌』（明治23年）、四代玉川覚平作 『花瓶古代瓦金銀象嵌』（大正時代）

## 鋳起銅器（ついぎどうき）とは

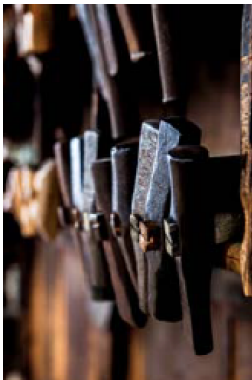


Photo : Yoshiaki Tsutui



Photo : Jingu Ooki



Photo: : Jingu Ooki

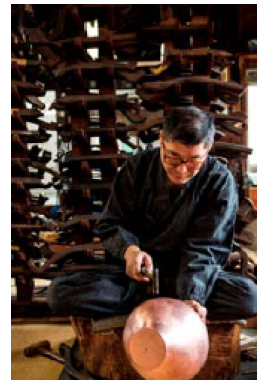


Photo : Yoshiaki Tsutui

鋳起銅器は、一枚の銅板を、火で熱して金鋳で打ち伸ばし、打ち縮めて、継ぎ目のない器物を造る、特殊な技法です。一度叩くと銅は硬くなるため、製作途中に火炉の中に銅器を入れ柔らかくしながら成形した後、玉川堂だけが有する独自の着色を施し、職人の幾つもの技が織り込まれた鋳起銅器が完成します。製作には 様々な道具を使用し、例えば、湯沸を製作するためには数十種類の鳥口（鉄棒）、金鋳を使用します。縮めるのも丸めるのも職人の勘一つで、その寸法はすべて職人の頭の中にあります。現在、新潟県より「新潟県無形文化財」、文化庁より「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」、経済産業大臣（旧通商産業大臣）より「伝統的工芸品」に指定され、国内唯一の鋳起銅器産地の発展に努力しています。

## 玉川堂 七代目 玉川 基行

二百年に及ぶ父祖の業を継承し、地場産業として国内唯一の鋳起銅器産地の発展に尽くしています。2008年、新潟県燕市の玉川堂の店舗・土蔵・鍛金場・雁木を、国の「登録有形文化財（建造物）」に登録。2014年、南青山に東京のフラッグシップとなる「玉川堂 青山店」をオープン、2017年4月には「玉川堂 銀座店」のオープンを予定しています。



玉川 基行



玉川堂 燕本店

Photo : Jingu Ooki